

「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」

導入コース(旧入門コース) 第4期生 募集要項

「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」は、現在オールジャパンで展開されている農業と福祉双方の課題解決を図る取組みとしての農福連携活動に、当センターがこれまで取り組んできた「環境・健康・食」に関する教育研究活動の成果を加えることによって、「多様な農福連携活動を企画・運営できる人材」を持続的に育成するシステムの構築を目指したプログラムです。

第4期となる令和4年度からは、名称を「入門コース」から「導入コース」に変更するとともに、プログラム内容を一新しました。このプログラム受講生（第4期生）を下記の要領で募集します。

1. 概要

本プログラムは、多様な農福連携プログラムを企画・運営するための基礎的な知識・実践能力の獲得を目指す講義・演習・栽培実習を組み合わせたカリキュラムになっており、作物栽培及び農福連携に関わる基礎を学びつつ、様々な視点を提供することで、その先の実践を見据えた内容になっています。「都市農業」×「障がい者支援」×「高齢者支援」×「QOL 向上」をテーマに、①人のこころや体の多様性についての理解力を得るための「福祉」分野（5講座／15時間）、②人の動作認識、作業の難易度や負荷を理解するための「人間工学」分野（4講座／12時間）、③植物栽培の基礎知識や技術を身に付けるための「植物」分野（1講座／3時間）、④経営学の基礎を習得するための「経営」科目（1講座／3時間）及び⑤栽培実習行う「実習」分野（1講座／30時間）から成る計12講座合計63時間のプログラムです。（全て対面での実施を予定しています。）

プログラム修了後は障がい者支援、高齢者支援、作業安全、植物・栽培学及び経営学に関する基本的リテラシーを備え、将来多様な局面において、自ら対象に合わせた「多様な」農福連携活動のマネジメントを行える基礎知識を身に付けることを期待しています。また、各講義・演習を通じて、分析評価能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、パートナーシップ構築能力の基本を身に付けることができます。

2. 応募資格

都市農業、農福連携やSDGs、地方創生に関心のある方

3. 募集定員

12名程度

応募書類を選考の上、令和4年8月17日（水）以降順次選考結果を連絡します。

4. 応募方法

(1) 応募書類

「令和4年度多様な農福連携プログラムに貢献できる人材育成プログラム」応募用紙

※応募書類は、千葉大学環境健康フィールド科学センターウェブサイトよりダウンロードすることができます。

URL : <http://www.fc.chiba-u.jp/rishuushoumei/2020bosshu.pdf>

(2) 応募期間

令和4年7月13日(水)～令和4年8月17日(水) (必着)

(3) 書類提出先

メールの場合 : field-jinji@chiba-u.jp ※件名の先頭に【受講希望】と記入願います。

郵送の場合 : 〒277-0882 柏市柏の葉 6-2-1

千葉大学環境健康フィールド科学センター(柏の葉地区事務課) 総務係 宛

※「千葉大学環境健康フィールド科学センター履修証明プログラム応募書類在中」と朱書きし、簡易書留にて郵送願います。

※応募にあたってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、本学において、履修生の管理業務、本プログラムに関する情報提供等、これらに付随する業務を行うためのみに使用します。また、取得した個人情報は適切に管理し、使用目的以外には使用しません。

5. 修了の要件

履修証明プログラムとして設定された12講座(計63時間)すべてにおいて、それぞれの修了要件を満たすこと。本プログラムを履修し全講座を修了した場合、千葉大学学長名での履修証明書を授与します。なお、単位の授与はありません。

6. 受講料及びその他費用について

(1) 受講料 60,000円

※受講決定通知後、令和4年9月30日(金)までに振り込み願います。なお支払われた受講料は、原則返金いたしません。プログラムを途中で辞退された場合でも同様です。

※本学職員が受講する際には、受講料を免除する。

※腸内細菌検査費用、施設見学(希望者のみ)の交通費は実費負担となります。

(2) その他

本プログラムで実施する対面授業・オプションの施設見学等に参加する交通費・施設見学科・宿泊費等は自己負担となります。対面授業は、千葉大学柏の葉キャンパスで実施することを予定しています。

7. 今後の日程について

(1) 応募書類締切	令和4年8月17日(水) 必着
(2) 選考結果通知(振り込み案内の送付を含む)	令和4年8月17日(水) 以降
(3) 受講料の支払い(60,000円)	令和4年9月30日(金) まで
(4) 対面授業期間 ※初日に開講式、最終日に修了式を行います。	令和4年9月3日(土)～令和5年1月21日(土)
(5) 履修証明書授与	所定の手続きを経た後、郵送します。

8. 問い合わせ先

千葉大学環境健康フィールド科学センター（柏の葉地区事務課）総務係
〒277-0882 柏市柏の葉 6-2-1
TEL : 04-7137-8006 Mail : zao8006@office.chiba-u.jp



履修証明プログラムの構成・シラバス・日程表

■ 多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム（導入コース）

（1）プログラムの構成

分野・科目名 等					
分野	科目名	講義形態	時間数	担当講師（ ）内は所属	
導入 コース	福祉	農福連携の取り組みの現状と課題	講義 演習	3	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院）
		障がいのある方の就労に関する施策と現状について	講義 演習	3	森田泰仁（エコグリーン協会） 柏市福祉政策課
		高齢者看護学	講義 演習	3	正木治恵（千葉大学看護学研究院）他
		園芸福祉学	講義 演習	3	野田勝二（千葉大学環境健康FSC）
		Nature Based Rehabilitation（NBR）とリハビリ テーションガーデン入門	講義 演習	3	石井麻有子（筑波大学）
	人間 工学	コミュニケーションとコントロール基礎	講義 演習	3	栗本育三郎（木更津高専／日本福祉工学会）
		作業療法概論	講義 演習	3	豊田正博（兵庫県立大学／淡路景観園芸学校）
		リハビリテーション概論	講義 演習	3	倉林準（杏林大学）
		植物セラピー学基礎	講義 演習	3	池井晴美（千葉大学環境健康FSC）
	植物	植物学基礎	講義 演習	3	渡辺均（千葉大学環境健康FSC）
	経営	経営・ビジネス基礎	講義 演習	3	小林寛利（VEGIMO GROUP）
	実習	栽培実習・栽培理論	実習 演習	30	大林修一（プラネット）、須江淳起（セルブ協会）、 高垣美智子・小原均・塚越寛・野田勝二（千葉 大学環境健康FSC）

※学外講師の演習には環境健康FSC教員、千葉大学学生がコーディネーターとして参加します。

※開講初日に開講式、最終日に受講生によるプレゼンテーションと修了式を実施します。

※上表以外に施設見学（希望者のみ、実費負担）を実施する予定です。

(2) シラバス（「実習分野」を除き、各3時間）

①福祉分野

農福連携の取り組みの現状と課題	
キーワード	農業と福祉の連携、経済性、社会的意義、障害と農作業
概要	農福連携の現状と取り組み方を解説する。 課題を学び、解決策の検討を行う。
開講日	9月3日（土） 午前
担当講師	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院）
分類	福祉
到達目標	農福連携事業での現状と課題を理解する。
構成	対面授業2時間 / 演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

障がいのある方の就労に関する施策と現状について	
キーワード	共生社会、障害者雇用、優先調達推進法、都市緑化・都市農業
概要	国が目指す共生社会のあり方について解説。そこで捉えられている障害者の働き方を施策ごとに現状課題を分析し、改善策を共有する。
開講日	9月17日（土） 午前
担当講師	森田泰仁（エコグリーン協会） / 柏市福祉政策課
分類	福祉
到達目標	共生社会の仕組みを理解し、障害の有無にかかわらず、誰もが働ける環境体制の構築を、自らが目指すといった意識の醸成。
構成	対面授業2時間 / 演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

高齢者看護学	
キーワード	超高齢社会、健康、ケア、保健医療
概要	高齢者の健康生活とその支援について解説する。 健康の保持および増進、疾病の予防などの人の健康に関わる分野を総合的に学習する。
開講日	10月15日（土） 午前
担当講師	正木治恵（千葉大学看護学研究院） 他
分類	福祉
到達目標	高齢者看護学の基礎を理解する。
構成	対面授業2時間 / 演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

園芸福祉学	
キーワード	病院緑化、園芸療法、リハビリテーション
概要	園芸を用いた高次脳機能障害者の社会復帰支援。植物栽培が人へ与える多様な影響や効果について実例を挙げて解説する。
開講日	1月7日（土） 午前
担当講師	野田勝二（千葉大学環境健康FSC）
分類	福祉
到達目標	園芸作業が人に与える影響について、その基礎を理解する。
構成	対面授業2時間 / 演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

Nature Based Rehabilitation（NBR）とリハビリテーションガーデン入門	
キーワード	NBR、リハビリテーションガーデン、ストレスケア
概要	Nature Based Rehabilitation（NBR）及びリハビリテーションガーデンの理念と人に与える影響について演習を交えて解説する。
開講日	11月26日（土） 午前
担当講師	石井麻有子（筑波大学）
分類	福祉
到達目標	NBRとリハビリテーションガーデンの理念と人に与える影響について、その基礎を理解する。
構成	対面授業2時間 / 演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

②人間工学分野

植物セラピー学基礎	
キーワード	リラックス効果、生理指標、快適性評価
概要	植物由来の刺激がもたらすリラックス効果について、最新の研究成果を踏まえて解説する。さらに、近赤外分光法による脳前頭前野活動計測等のデモ実験を行うことにより、生理的快適性評価手法の基礎を学ぶ。
開講日	10月29日（土） 午前
担当講師	池井晴美（千葉大学環境健康FSC）
分類	人間工学
到達目標	植物セラピー学の基礎を理解する。
構成	対面授業2時間 / 演習（デモ実験）1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

リハビリテーション概論

キーワード	身体障害の分類と実際、可能なADL（日常生活動作）の特徴
概要	様々な身体障害に対する問題点と簡易な分類分け、そのリハビリテーションの実際と、可能なADLの特徴とともに、農福連携における配慮点に関して解説する。
開講日	11月12日（土） 午前
担当講師	倉林準（杏林大学）
分類	人間工学
到達目標	リハビリテーションにおける身体障害の基礎を理解する。
構成	対面授業2時間 / 演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

作業療法概論

キーワード	栽培管理、作業分析、作業難易度、農作業と健康
概要	作業と健康、障害者に配慮した農作業分析、作業難易度の可視化と農福連携への活用、農作業が与える健康効果などを紹介する。
開講日	12月10日（土） 午前
担当講師	豊田正博（兵庫県立大学／淡路景観園芸学校 園芸療法課程）
分類	人間工学
到達目標	栽培管理における作業の組み立ての基礎と作業がもたらす健康効果を理解する。
構成	対面授業2時間 / 演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

コミュニケーションとコントロール基礎

キーワード	環境、コミュニケーション、情報、計算機、コントロール、植物工場
概要	環境、動物、植物、人、コミュニケーション、情報、計算機、コントロールについて、最先端の植物工場の環境制御までを統合的に解説する。
開講日	12月24日（土） 午後
担当講師	栗本育三郎（木更津高専／日本福祉工学会）
分類	人間工学
到達目標	システム情報学の基礎を理解する。
構成	対面授業2時間 / 演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

③植物分野

植物学基礎	
キーワード	分類、構造、成長、効果
概要	植物学的な側面から、植物の基本的な名称や構造を解説する。 植物の機能性の基礎を学ぶ。
開講日	10月1日（土） 午前
担当講師	渡辺均（千葉大学環境健康FSC）
分類	植物
到達目標	植物の構造、形の基礎を理解する。 植物の機能性の現状と課題を説明することができる。
構成	対面授業2時間 / 演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

④経営分野

経営・ビジネス基礎	
キーワード	経営概論
概要	一般的な経営学の基礎に加え、農業経営および福祉施設の経営について解説する
開講日	1月14日（土） 午前
担当講師	小林寛利（VEGIMO GROUP）
分類	経営
到達目標	経営・ビジネス学の基礎を理解する。 農福連携事業での現状と課題を説明することができる。
構成	対面授業2時間 / 演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

⑤実習分野

栽培実習・栽培理論	
キーワード	栽培技術、有機農業、施設園芸、園芸作物、加工
概要	栽培実習を通じて、取り組みの工夫、課題、将来展望などを学ぶ。
開講日	
担当講師	大林修一（プラネット）、須江淳起（セルブ協会）、高垣美智子・小原均・塚越寛・野田勝二（千葉大学環境健康FSC）他
分類	実習
到達目標	農福連携事業の現状と課題を理解することができる。 事業の改善を提案できる。
構成	農場での播種、管理、収穫などの作業 屋内緑化に関わる講義・実習 施設園芸、有機農業、養液栽培の基礎を学ぶ
修了要件	見学、意見交換会に参加すること
特記事項	加工実習を行うため、腸内細菌検査を受けていただく必要があります。 （別途、説明があります）

⑥その他

施設見学	
キーワード	作業所、六次化
概要	様々な施設見学を通じて、取り組みの工夫、課題、将来展望などを学ぶ。
開講日	日程は別途案内します。
担当講師	高垣美智子・小原均・野田勝二（千葉大学環境健康FSC）他
分類	見学・演習
到達目標	農福連携事業の現状と課題を説明することができる。 事業の改善を提案できる。
構成	農福連携に取り組んでいる施設の見学
修了要件	見学、意見交換会に参加すること
特記事項	交通費は実費負担となります。受講生以外の方も参加します。

(3) 日程表

土曜日開講 1日6時間 (9:00~12:00、13:00~16:00)

	午前		午後		備考
	9:00~12:00		13:00~16:00		
9/3	【講義・演習】 <福祉>  『農福連携の取り組みの現状と課題』 吉田行郷 (千葉大学園芸学研究院)		開講式／園場見学・施設案内 秋野菜定植 葉菜類の播種等 		開講式 園場見学 施設案内
9/17	【講義・演習】 <福祉>  『障がいのある方の就労に関する 施策と現状について』 森田泰仁 (エコグリーン協会) / 柏市福祉政策課		加工用ブドウ二番果収穫等 		
10/1	【講義・演習】 <植物>  『植物学基礎』 渡辺均 (千葉大学環境健康FSC)		ジャム加工 		
10/15	【講義・演習】 <福祉>  『高齢者看護学』 正木治恵 (千葉大学看護学研究院) 他		秋野菜等の管理 		
10/29	【講義・演習】 <人間工学>  『植物セラピー学基礎』 池井晴美 (千葉大学環境健康FSC)		養液栽培葉菜類播種 ジャムラッピング 		
11/12	【講義・演習】 <人間工学>  『リハビリテーション概論』 倉林準 (杏林大学)		養液栽培葉菜類の定植 		
11/26	【講義・演習】 <福祉>  『Nature Based Rehabilitation とリハビリテーションガーデン入門』 石井麻有子 (筑波大学)		【栽培理論】  『有機栽培の理論と実際』 須江淳起 (セルブ協会)		
12/10	【講義・演習】 <人間工学>  『作業療法概論』 豊田正博 (兵庫県立大学/淡路景観園芸学校)		養液栽培葉菜類収穫 果樹類管理 		学生参加
12/24		【栽培実習】  秋野菜等の収穫	【講義・演習】 <人間工学>  『コミュニケーションとコントロール基礎』 栗本育三郎 (木更津高専/日本福祉工学会)		
1/7	【講義・演習】 <福祉>  『園芸福祉学』 野田勝二 (千葉大学環境健康FSC)		【栽培理論】  『屋内緑化の理論と実際』 大林修一 (プラネット)		学生参加
1/21	【講義・演習】 <経営>  『経営・ビジネス基礎』 小林寛利 (VEGIMO GROUP)		受講生プレゼンテーション・修了式		修了式